

平成 29 年度  
日本商工会議所

---

# 第148回

## 簿記検定試験

2 級

【解答・解説】

この解答例は、当社で作成したものです。  
解答中に記載してある配点は、当社で考えた予想配点です。

**LEC**東京リーガルマインド

著作権者 株式会社東京リーガルマインド  
(C)2017 TOKYO LEGAL MIND K.K., Printed in Japan  
無断複製・無断転載等を禁じます。  
有効期限 2018年2月25日/2018年6月9日



第148回 解 答 —商業簿記—

第1問 (20点)

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	買 掛 金	5,000,000	現 金 仕 入 割 引	4,995,000 5,000
2	備品減価償却累計額 貯 蔵 品 固 定 資 産 除 却 損	720,000 50,000 30,000	備 品	800,000
3	その他資本剰余金 繰越利益剰余金	900,000 600,000	資 本 準 備 金 利 益 準 備 金	900,000 600,000
4	売上割戻引当金 売 上	10,500 7,500	普 通 預 金	18,000
5	為 替 差 損 益	800,000	売 掛 金	800,000

仕訳1組につき4点。

第 2 問 (20 点)

問 1

売買目的有価証券

日 付			摘 要	借 方	日 付			摘 要	貸 方
29	2	1	当 座 預 金	294,000	29	10	1	当 座 預 金	98,000
	12	31	有価証券評価益	1,600		12	31	次 期 繰 越	197,600
				295,600					295,600

満期保有目的債券

日 付			摘 要	借 方	日 付			摘 要	貸 方
29	4	1	当 座 預 金	591,000	29	12	31	次 期 繰 越	592,350
	12	31	有価証券利息	1,350					
				592,350					592,350

有価証券利息

日 付			摘 要	借 方	日 付			摘 要	貸 方
29	2	1	当 座 預 金	100	29	6	30	当 座 預 金	600
	12	31	損 益	5,050		10	1	当 座 預 金	100
						12	31	当 座 預 金	400
							"	未収有価証券利息	2,700
							"	満期保有目的債券	1,350
				5,150					5,150

問 2

有価証券売却 ( 益 )	¥ 600
--------------	-------

□ につき 2 点。

第148回 解答 —商業簿記—

第3問 (20点)

(単位：千円)

科目	個別財務諸表		修正・消去		連結財務諸表
	P社	S社	借方	貸方	
貸借対照表					
現金預金	180,000	65,000			245,000
売掛金	480,000	220,000		180,000	520,000
商品	370,000	165,000		42,000	493,000
未収入金	80,000	13,000		18,000	75,000
貸付金	150,000			60,000	90,000
未収収益	12,000			900	11,100
土地	165,000	36,000		6,000	195,000
建物	50,000				50,000
建物減価償却累計額	△24,000				△24,000
(のれん)			80,000	4,000	72,000
				4,000	
S社株式	200,000			200,000	
資産合計	1,663,000	499,000	80,000	514,900	1,727,100
買掛金	181,000	205,000	180,000		206,000
借入金	125,000	70,000	60,000		135,000
未払金	120,000	42,000	18,000		144,000
未払費用	88,000	2,000	900		89,100
資本金	226,000	100,000	100,000		226,000
資本剰余金	123,000	20,000	20,000		123,000
利益剰余金	800,000	60,000	30,000	861,500	768,000
			4,000		
			1,200		
			918,300		
非支配株主持分				30,000	36,000
				1,200	
				4,800	
負債純資産合計	1,663,000	499,000	1,332,400	897,500	1,727,100
損益計算書					
売上高	1,560,000	1,080,000	860,000		1,780,000
売上原価	1,014,000	767,000	42,000	860,000	963,000
販売費及び一般管理費	465,000	288,000			753,000
(のれん)償却			4,000		4,000
受取利息	5,200	800	1,500		4,500
支払利息	4,000	1,800		1,500	4,300
土地売却益	6,000		6,000		
当期純利益	88,200	24,000	913,500	861,500	60,200
非支配株主に帰属する当期純利益			4,800		4,800
親会社株主に帰属する当期純利益			918,300	861,500	55,400

につき2点。

第 4 問 (20 点)

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	仕 掛 品	1,536,000	材 料	1,536,000
(2)	仕 掛 品	405,000	製 造 間 接 費	405,000
(3)	仕 掛 品	186,000	現 金	186,000
(4)	製 品	1,262,000	仕 掛 品	1,262,000
(5)	原 価 差 異	17,000	製 造 間 接 費	17,000

仕訳 1 組につき 4 点。

第 5 問 (20 点)

問 1  円/時間

問 2 組別総合原価計算表 (単位: 円)

	A 製 品		B 製 品	
	原 材 料	加 工 費	原 材 料	加 工 費
月初仕掛品原価	187,000	63,500	497,500	217,500
当月製造費用	3,200,000	( 2,047,500 )	6,195,000	( 3,640,000 )
合 計	( 3,387,000 )	( 2,111,000 )	( 6,692,500 )	( 3,857,500 )
月末仕掛品原価	( 320,000 )	( 105,000 )	( 1,050,000 )	( 260,000 )
完成品総合原価	( 3,067,000 )	( 2,006,000 )	( 5,642,500 )	( 3,597,500 )

問 3  円/kg

につき 4 点。

【2 級総評】

全体としては、合格点を確保するのはやや難しい問題でした。第 1 問、第 4 問、第 5 問で 50 点以上を確保した上で、第 2 問と第 3 問で合計 20 点を確保できたかがポイントです。第 3 問で、連結会計の総合問題が初めて出題されましたが、開始仕訳の難易度が高く、内部取引や債権債務の相殺などの解答しやすい論点でいかに得点を確保できたかが、合否を分けたポイントの 1 つであったと思われます。

【解 説】

第 1 問

仕訳に関する問題です。勘定科目の指定があるので誤字等がないよう、正確に記入するように注意しましょう。

1. 仕入割引

買掛金を早期に決済した場合に、仕入先への支払額を減額してもらうことを仕入割引といいます。仕入割引は、買掛金の支払いを早めたことによって短縮した、決済日までの期間の利息相当額を免除してもらっていることになるので営業外収益として処理をします。したがって、営業活動取引（仕入取引）の金額には影響しません。

$$\text{仕入割引} : ¥5,000,000 \times 0.1\% = ¥5,000$$

2. 固定資産の除却

除却した備品は、前期末に耐用年数が経過し、帳簿価額は残存価額と等しくなっているため、当期以降の減価償却の必要はありません。保有する固定資産を除却した場合に、処分価値（処分可能価額）があるときは貯蔵品で処理します。また、除却時点における帳簿価額から処分価値を差引いて固定資産除却損を算定します。

$$\text{除却時点の帳簿価額} : ¥800,000 - ¥720,000 = ¥80,000$$

$$\text{固定資産除却損} : ¥80,000 - \text{処分価値} ¥50,000 = ¥30,000$$

3. 株主資本の係数の変動

株式会社は、株主総会等の決議により、株主資本のうちある科目から、株主資本の別の科目に振替えを行うことによって、株主資本の金額の内訳を変更することができ、これを「株主資本の計数の変動」といいます。

「株主資本の計数の変動」は、原則として「資本金」・「資本剰余金」の中での計数の変動と「利益剰余金」の中での計数の変動が認められているので、その他資本剰余金は資本準備金へ、繰越利益剰余金は利益準備金へ振替えて組み入れます。

4. 売上割戻引当金

売上割戻引当金は、得意先との間で売上割戻に関する契約がある場合に、当期の販売によって将来生ずると予想される売上割戻の見込額を引当計上するものです。売上割戻が実際に行われた場合、前期の売上に係る割戻については、売上割戻引当金を取崩します。これに対して、当期の売上に係る割戻は、売上を減額させます。

$$\text{割戻額} : ¥1,200,000 \times 1.5\% = ¥18,000$$

$$\text{当期の売上に係る割戻額（売上の減額）} : ¥18,000 - ¥10,500 = ¥7,500$$

5. 為替予約の振当処理

為替予約をすることにより、売掛金決済時に用いる為替相場を、為替予約締結時の先物為替相場で固定することが出来ます。為替予約による売掛金の円換算額と売上時に計上した売掛金の円換算額との間に差額が生じますが、これを、当期の損益として為替差損益で処理します。

$$\text{売上時の円換算額} : 400,000 \text{ ドル} \times ¥115/\text{ドル} = ¥46,000,000$$

$$\text{為替予約による円換算額} : 400,000 \text{ ドル} \times ¥113/\text{ドル} = ¥45,200,000$$

$$\text{為替差損益} : ¥45,200,000 - ¥46,000,000 = \triangle ¥800,000$$

※ 為替予約により売掛金の受取額が ¥800,000 減少するので、為替差損が生じていると考えます。

第 2 問

有価証券の取引にかかわる処理の問題です。勘定記入では、各取引の仕訳を行い、それにもとづき各勘定に記入していきます。計算では特に、有価証券利息の月割計算を正確に行うことが重要となります。

各取引の仕訳は以下ようになります。

2/ 1 売買目的有価証券（国債）の購入、端数利息の支払い

(借) 売買目的有価証券	294,000	(貸) 当座預金	294,100
受取利息	100		

$$\text{売買目的有価証券} : \text{¥}300,000 \times \frac{\text{¥}98.00}{\text{¥}100} = \text{¥}294,000$$

$$\text{端数利息} : \text{¥}300,000 \times 0.4\% \times \frac{1\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}100$$

4/ 1 満期保有目的債券（社債）の購入

(借) 満期保有目的債券	591,000	(貸) 当座預金	591,000
--------------	---------	----------	---------

$$\text{満期保有目的債券} : \text{¥}600,000 \times \frac{\text{¥}98.50}{\text{¥}100} = \text{¥}591,000$$

6/30 売買目的有価証券（国債）の利払日

(借) 有価証券利息	600	(貸) 当座預金	600
------------	-----	----------	-----

$$\text{有価証券利息} : \text{¥}300,000 \times 0.4\% \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}600$$

10/ 1 売買目的有価証券（国債）の一部売却、端数利息の受取り

(借) 当座預金	98,700	(貸) 売買目的有価証券	98,000
		有価証券売却益	600
		受取利息	100

$$\text{売却した売買目的有価証券の帳簿価額} : \text{¥}294,000 \times \frac{\text{¥}100,000}{\text{¥}300,000} = \text{¥}98,000$$

$$\text{売買目的有価証券の売却価額} : \text{¥}100,000 \times \frac{\text{¥}98.60}{\text{¥}100} = \text{¥}98,600$$

$$\text{有価証券売却益 (帳簿価額 < 売却価額)} : \text{¥}98,600 - \text{¥}98,000 = \text{¥}600 \quad \dots \quad (\text{問 2 の解答})$$

$$\text{端数利息} : \text{¥}100,000 \times 0.4\% \times \frac{3\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}100$$

12/31 売買目的有価証券（国債）の利払日

(借) 有価証券利息	400	(貸) 当座預金	400
------------	-----	----------	-----

$$\text{有価証券利息} : (\text{¥}300,000 - \text{¥}100,000) \times 0.4\% \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}400$$

12/31 決算整理仕訳

(1) 売買目的有価証券の評価替え（時価評価）

(借) 売買目的有価証券	1,600	(貸) 有価証券評価益	1,600
--------------	-------	-------------	-------

$$\text{売買目的有価証券の帳簿価額} : \text{¥}294,000 - \text{¥}98,000 \text{ (10/1 売却分)} = \text{¥}196,000$$

$$\text{売買目的有価証券の決算日時価} : (\text{¥}300,000 - \text{¥}100,000) \times \frac{\text{¥}98.80}{\text{¥}100} = \text{¥}197,600 \text{ (次期繰越)}$$

$$\text{有価証券評価益 (帳簿価額 < 時価)} : \text{¥}197,600 - \text{¥}196,000 = \text{¥}1,600$$

(2)

a 満期保有目的債券の利息の見越計上 (平成 29 年 4 月～平成 29 年 12 月 9 ヶ月分)

(借) 未収有価証券利息	2,700	(貸) 有価証券利息	2,700
--------------	-------	------------	-------

当期分の有価証券利息： $\text{¥}600,000 \times 0.6\% \times \frac{9\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}2,700$

b 満期保有目的債券の償却原価法による評価 (平成 29 年 4 月～平成 29 年 12 月 9 ヶ月分)

(借) 満期保有目的債券	1,350	(貸) 有価証券利息	1,350
--------------	-------	------------	-------

金利調整差額： $\text{¥}600,000$  (額面総額)  $- \text{¥}591,000$  (取得原価)  $= \text{¥}9,000$

当期の償却額： $\text{¥}9,000 \times \frac{9\text{ヶ月}}{60\text{ヶ月}} = \text{¥}1,350$

満期保有目的債券の期末帳簿価額： $\text{¥}591,000 + \text{¥}1,350 = \text{¥}592,350$  (次期繰越)

12/31 損益振替により有価証券利息勘定から損益勘定に振替え

(借) 有価証券利息	5,050	(貸) 損益	5,050
------------	-------	--------	-------

損益： $(\text{¥}600 + \text{¥}100 + \text{¥}400 + \text{¥}2,700 + 1,350) - \text{¥}100 = \text{¥}5,050$



第3問

連結精算表の問題です。連結修正仕訳をきり、修正・消去欄に記入し、個別財務諸表の合計額に加減算して記入していきませんが、利益剰余金の欄など記入しづらい箇所もあり、完答するのは難しい問題でした。

試験時間内でなるべく点数を取るためには、P社とS社間の債権債務や取引の消去など、確実に埋めることができる場所を確実に記入し、利益剰余金の残高は貸借対照表の貸借差額で求めるなど、解答上の工夫や解答の優先順位を決めて解くことが必要でした。

I 連結修正仕訳に使う科目について

本問の場合は、連結株主資本等変動計算書を作成しません。そのため、本来は、連結株主資本等変動計算書に記載される科目（つまり純資産の科目）の連結修正を行う際には、直接、連結貸借対照表の科目で連結修正することになります。具体的には、純資産の科目を連結修正する際に、「当期首残高」や「当期変動額」をつける必要はないということです。

II 連結修正仕訳（単位：千円）

《開始仕訳》

開始仕訳を行うにあたり、過年度に行われた連結修正仕訳を考えます。

親会社は、支配獲得日である平成X0年3月31日に、連結修正仕訳（支配獲得時は投資と資本の相殺消去のみ）をしています。

その後、各期末において「のれんの償却」及び「子会社当期純利益の振替」を行います。

1. 開始仕訳

(1) 投資と資本の相殺消去

※1 P社はS社の発行済株式総数の80%を取得したので、P社の持株割合は80%、非支配株主の持株割合は20%となります。

※2 投資と資本の相殺消去仕訳では、S社の純資産のうち80%分はP社の保有しているS社株式と相殺し、S社の純資産のうち20%分は「非支配株主持分」に振替えます。

(借)	資 本 金	*1	100,000	(貸)	S 社 株 式	200,000
	－ 資本金当期首残高－					
	資 本 剰 余 金	*1	20,000		非 支 配 株 主 持 分	*4 30,000
	－ 資本剰余金当期首残高－				－ 非支配株主持分当期首残高－	
	利 益 剰 余 金	*1	30,000			
	－ 利益剰余金当期首残高－					
	の れ ん	*2	80,000			

\*1 支配獲得日のS社純資産

\*2 のれん： 200,000 (S社株式) - 120,000<sup>\*3</sup> = 80,000 (借)

\*3 P社持分： 150,000 (支配獲得日のS社純資産合計) × 80% (P社持分割合) = 120,000

\*4 支配獲得日の非支配株主持分： 150,000 (支配獲得日のS社資本合計) × 20% (非支配株主割合) = 30,000

(2) のれんの償却

(借)	利 益 剰 余 金	*5	4,000	(貸)	の れ ん	4,000
	－ 利益剰余金当期首残高－					

\*5 80,000 ÷ 20年 = 4,000

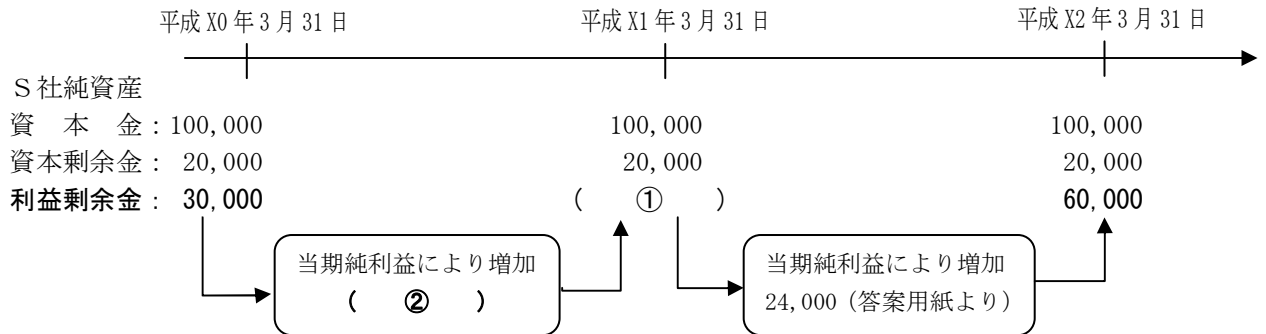
(3) 子会社当期純利益の振替

(借)	利 益 剰 余 金	*6	1,200	(貸)	非 支 配 株 主 持 分	1,200
	－ 利益剰余金当期首残高－				－ 非支配株主持分当期首残高－	

\*6 6,000<sup>\*7</sup> (S社の当期純利益) × 20% (非支配株主割合) = 1,200

\*7 前期(平成X0年4月1日～平成X1年3月31日)にS社が計上した当期純利益の金額であるが、本問の場合、金額が資料に与えられていません。そのため各自で算定する必要があります。

以下のように、S社の利益剰余金の推移から算定します。



2. 当期の連結修正仕訳

(1) のれんの償却

(借) のれん償却 *1	4,000	(貸) のれん	4,000
--------------	-------	---------	-------

\*1  $80,000 \div 20年 = 4,000$

(2) 子会社当期純利益の振替

(借) 非支配株主に帰属する当期純利益 *2	4,800	(貸) 非支配株主持分	4,800
------------------------	-------	-------------	-------

—非支配株主持分当期変動額—

\*2  $24,000 (S社の当期純利益) \times 20\% (非支配株主割合) = 4,800$

(3) 債権・債務の相殺

① 売掛金と買掛金

(借) 買掛金	180,000	(貸) 売掛金	180,000
---------	---------	---------	---------

② 貸付金と借入金

(借) 借入金	60,000	(貸) 貸付金	60,000
---------	--------	---------	--------

③ 未収入金と未払金

(借) 未払金	18,000	(貸) 未収入金	18,000
---------	--------	----------	--------

④ 未収収益と未払費用

(借) 未払費用	900	(貸) 未収収益	900
----------	-----	----------	-----

(4) 内部取引の相殺

① 売上高と売上原価

(借) 売上高	860,000	(貸) 売上原価	860,000
---------	---------	----------	---------

② 受取利息と支払利息

(借) 受取利息	1,500	(貸) 支払利息	1,500
----------	-------	----------	-------

(5) 期末商品に含まれる未実現利益の消去 (ダウン・ストリーム)

(借)	売 上 原 価	42,000	(貸)	商 品	*3	42,000
-----	---------	--------	-----	-----	----	--------

\*3 期末商品に含まれる内部利益 : 140,000 (S社の期末商品のうちP社からの仕入分) × 30% (利益率) = 42,000

(6) 土地に含まれる未実現利益の消去 (ダウン・ストリーム)

(借)	固 定 資 産 売 却 益	6,000	(貸)	土 地	*4	6,000
-----	---------------	-------	-----	-----	----	-------

\*4 36,000 (売価) - 30,000 (簿価) = 6,000 (売却益)

### Ⅲ. 連結精算表の修正・消去欄の記入

連結精算表の修正・消去欄は、上記Ⅱの連結修正仕訳を記入しますが、それ以外に以下の記入が必要です。

科 目	個別財務諸表		修正・消去		連結財務諸表
	P 社	S 社	借 方	貸 方	
<b>損 益 計 算 書</b>					
売 上 高	1,560,000	1,080,000	860,000		1,780,000
売 上 原 価	1,014,000	767,000	42,000	860,000	963,000
販売費及び一般管理費	465,000	288,000			753,000
(のれん)償却			4,000		4,000
受 取 利 息	5,200		1,500		
支 払 利 息	4,000			1,500	
土 地 売 却 益	6,000		6,000		
当 期 純 利 益	88,200	24,000	①913,500	②861,500	60,200
非支配株主に帰属する当期純利益			4,800		4,800
親会社株主に帰属する当期純利益			③918,300	②861,500	55,400

ここの合計を①に記入

ここの合計を②に記入

①+4,800=③

60,200-4,800

②③の金額を利益剰余金の修正・消去欄に転記します。

科 目	個別財務諸表		修正・消去		連結財務諸表
	P 社	S 社	借 方	貸 方	
<b>貸 借 対 照 表</b>					
利 益 剰 余 金	800,000	60,000	30,000	②861,500	768,000
			4,000		
			1,200		
			③918,300		

第 4 問

本問は、受注生産形態を採用している工場を前提とした個別原価計算の問題です。原価計算表を下書きするとともに、各仕訳をしていくという流れで解答します。

I あせらずに集計しよう原価計算表（単位：円）

※表中の(1)～(4)は、以下の解説「II ていねいな仕訳の説明」の番号に対応させてあります。

プロジェクト番号	#180201	#180202	#180203	計
直接材料費	480,000 *1	624,000	432,000	(1) 1,536,000
直接労務費	644,000 *2	854,000	392,000	1,890,000
直接経費	—	186,000	—	(3) 186,000
製造間接費	138,000 *3	183,000	84,000	(2) 405,000
計	(4) 1,262,000	1,847,000	908,000	4,017,000
備考	完成	仕掛中	仕掛中	

\*1  $24,000/\text{台} \times 20\text{台} = 480,000$

\*2  $1,400/\text{時間} \times 460\text{時間} = 644,000$

\*3  $300^{*4}/\text{時間} \times 460\text{時間} = 138,000$

\*4 予定配賦率：5,040,000（予算）÷ 16,800時間（基準操業度）＝ 300/時間

II ていねいな仕訳の説明（単位：円）

〔一連の取引〕の仕訳は以下のとおりです。

(1) 直接材料費の発生

(借)	仕掛品 *1	1,536,000	(貸)	材 料	1,536,000
-----	--------	-----------	-----	-----	-----------

\*1  $24,000/\text{台} \times (20\text{台} + 26\text{台} + 18\text{台}) = 1,536,000$

(2) 製造間接費の予定配賦 ⇒ 直接作業時間を配賦基準として配賦します。

(借)	仕掛品 *2	405,000	(貸)	製造間接費	405,000
-----	--------	---------	-----	-------	---------

\*2  $300^{*4}/\text{時間} \times (460\text{時間} + 610\text{時間} + 280\text{時間}) = 405,000$

\*3 予定配賦率：5,040,000（予算）÷ 16,800時間（基準操業度）＝ 300/時間

(3) 直接経費の発生

(借)	仕掛品 *4	186,000	(貸)	現 金	186,000
-----	--------	---------	-----	-----	---------

\*4 外注加工賃は、プロジェクト番号 #180202 の製造作業の一部を依頼したものであり、直接経費として仕掛品勘定の借方に記帳処理をします。

(4) 完成品原価の計上

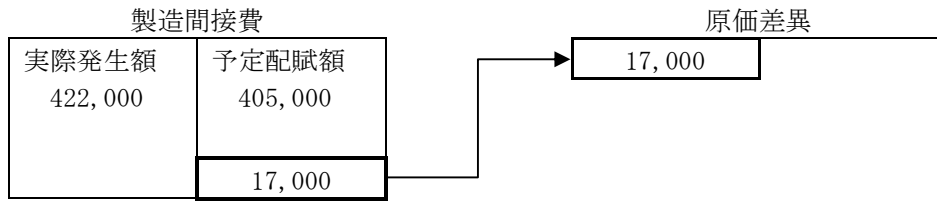
(借)	製 品 *5	1,262,000	(貸)	仕 掛 品	1,262,000
-----	--------	-----------	-----	-------	-----------

\*5 プロジェクト番号 #180201 の完成品原価となります。上記の原価計算表の縦計を参照。

(5) 原価差異の把握

(借)	原 価 差 異 *6	17,000	(貸)	製 造 間 接 費	17,000
-----	------------	--------	-----	-----------	--------

\*6 製造間接費の予定配賦額と実際発生額の差額。



第 5 問

本問は、見込大量生産形態を採用している工場を前提とした組別総合原価計算の問題です。

A製品とB製品にそれぞれ加工費を予定配賦したうえで、原価投入額合計を完成品総合原価と月末仕掛品原価に配分します。

I 加工費の予定配賦 (単位：円)

$$\begin{aligned} \text{予定配賦率} &: \text{加工費予算額} \div \text{基準操業度} \\ &= 81,900,000 \div 18,000 \text{時間} \\ &= 4,550/\text{時間} \end{aligned}$$

$$\text{A製品への予定配賦額} : 4,550/\text{時間} \times 450 \text{時間} = 2,047,500 \text{ (下記の解説IIの*1)}$$

$$\text{B製品への予定配賦額} : 4,550/\text{時間} \times 800 \text{時間} = 3,640,000 \text{ (下記の解説IIの*8)}$$

II 原価投入額合計を完成品総合原価と月末仕掛品原価に配分する計算 (単位：円)

【原価データ】

月初仕掛品原価  
 原料費： 187,000  
 加工費： 63,500

当月製造費用  
 原料費： 3,200,000  
 加工費： 2,047,500\*1

【A製品・生産データ】

月初仕掛品 100kg (50 kg)	完成品 1,900 kg (1,900 kg)
当月投入 2,000 kg (1,950 kg)	月末仕掛品 200 kg (100 kg)

完成品原価  
 原料費： 3,067,000\*4  
 加工費： 2,006,000\*5

月末仕掛品原価  
 原料費： 320,000\*2  
 加工費： 105,000\*3

先入先出法  
で計算

\*1 A製品への予定配賦額： 4,550/時間 × 450 時間 = 2,047,500 (上記の解説Iより)

\*2 (3,200,000 ÷ 2,000 kg) × 200 kg = 320,000

\*3 (2,047,500 ÷ 1,950 kg) × 100 kg = 105,000

\*4 (187,000 + 3,200,000) - 320,000 = 3,067,000

\*5 (63,500 + 2,047,500) - 105,000 = 2,006,000

【原価データ】

月初仕掛品原価  
 原料費： 497,500  
 加工費： 217,500

当月製造費用

原料費： 6,195,000  
 加工費： 3,640,000<sup>\*8</sup>

【B製品・生産データ】

月初仕掛品 300kg (150 kg)	完成品 2,750 kg (2,750 kg)
当月投入 2,950 kg <sup>*6</sup> (2,800 kg <sup>*7</sup> )	正常減損 200 kg ( ? kg)
	月末仕掛品 500 kg (200 kg)

完成品原価  
 原料費： 5,642,500<sup>\*11</sup>  
 加工費： 3,597,500<sup>\*12</sup>

月末仕掛品原価  
 原料費： 1,050,000<sup>\*9</sup>  
 加工費： 260,000<sup>\*10</sup>

両者負担のときは、  
生産データから控除

度外視法では、  
正常減損の原価  
は計算しない。

先入先出法  
で計算

- \*6 生産データ実在量の貸借差額：2,750 kg + 500 kg - 300kg = 2,950 kg
- \*7 生産データ換算量の貸借差額：2,750 kg + 200 kg - 150kg = 2,800 kg
- \*8 B製品への予定配賦額：4,550/時間 × 800時間 = 3,640,000（上記の解説 I より）
- \*9 先入先出法(6,195,000 ÷ 2,950 kg) × 500 kg = 1,050,000
- \*10 (3,640,000 ÷ 2,800 kg) × 200 kg = 260,000
- \*11 (497,500 + 6,195,000) - 1,050,000 = 5,642,500
- \*12 (217,500 + 3,640,000) - 260,000 = 3,597,500